

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0892700154		
法人名	株式会社榎戸工務店		
事業所名	グループホームE☆ホーム		
所在地	茨城県筑西市茂田1396番地3		
自己評価作成日	2020年12月24日	評価結果市町村受理日	2021年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=0892700154-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=0892700154-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2021年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が自宅で生活しているような、普通の暮らしの実現に向け、またご家族様には実家のように気軽に訪問いただける、そんな家族愛に満ちたホームを目指しております。認知症の諸症状を個性とし、温かく見守り、楽しい体験をより多く持てるよう、また利用者様の生活力が維持できるよう、お手伝いさせていただきたいと考えておりましたがコロナの為、面会制限、外出制限をしなくてはならず、ホーム内に於いての楽しみの発見、工夫をこらせるよう努力しております。個別の状況に合わせて対応。ラインの有効活用によりご家族様と身近につながりを作っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設4年目のホームである。自己評価表は、職員個々にヒアリングをして集めた意見を管理者がまとめた。自宅と同じ時間の流れで過ごしてもらいたいという思いは、全職員共通である。手芸が得意で、縫物をしていてと落ちくという方に、手拭き用のハンドタオルを縫ってもらい、全員で使っている。ペーパータオルの使用より職員の負担が減り、利用者にも役割が出来たと感じており、利用者の得意分野を活かすことでの相乗効果が得られていた。コロナ禍ではあるが、様々な工夫を凝らし、SNSを使って利用者家族に動画を送った。家族の安心にも繋がっている様だ。  
\* 新型コロナウイルス感染対策としてオンラインで調査を実施。ホーム内の視察及び書類閲覧はモニター越しに行い、リアルタイムの映像で確認。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族愛の理念のもと 利用者様も職員もご家族様もひとつの家族構成員として安心安全に生活できるようお手伝いをさせていただいております。コロナの状況下、方法を工夫しております。	自宅にいた時と同じようにのんびりと過ごせるよう、一日の日課はそれぞれ。寝ている時は無理には起こさず、食事時間をずらす等の対応をしている。理念は、朝礼や申し送り時に確認している。管理者と看護師がリーダーとして指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの為イベント、会議など中止となっております。入退所に関しては、十分感染予防の上個別対応しています。	散歩も自粛しているが、近くの人からの差し入れで、野菜、お赤飯、地域の料理(しもつかれ)をいただいた。受渡しは、電話をいただき、管理者がとりに行ったり、玄関先において行ってくれたり、感染対策に配慮されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの為イベント、会議など中止となっております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為、書面での実施。	文書で行事報告を委員に送っている。意見としての返信がないので、町で会った時に聞いた話を参考にしてまとめ、役所に報告送った。役所からは新型コロナウイルス感染への注意や情報提供がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政の指導に沿っております。月1回の状況報告。	新型コロナウイルスに関する指導、マスク・消毒薬品の提供があった。利用の状況等、現況届を月に1回報告。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会、申し送り時活用し意識して行動できるよう、身体拘束のみならず言葉、表情、態度なども常に指導しております。	3ヶ月に1度、職員会議の時間に適正化委員会も開催する。拘束についての研修は、密になることを回避する為に自主学習としている。申し送り時に拘束に関する指導をすることもある。外に出たい気持ちを止めておくのは拘束か、という疑問を感じているが、納得できるような理由で説明をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会開催が出来ないため、各自に進んで学ぶ指導をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族様皆さんしっかりされており、経済的にも心配な方はいません。職員には研修や資格取得、に合わせ知識の必要性を進めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に細かくわかりやすい説明、ご理解、納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、アンケートにより意見を求めていますがありませんでした。意見には真摯に取り組んでいきたい。	家族からの意見はほとんどない。見学の時分で納得し、利用に繋がっているので、全てお任せしますという家族が多い。大変な状況で利用開始となった方が穏やかになっていく様子を見て、家族は安心している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見、アイデアが出やすい環境づくりをしている。利用者様にとって良い事、職員にとって働きやすい良い提案は聞き入れられている。	自由に考え、自由に行動し、いいと思う事は試してみようとしている。利用間もないころ、部屋を間違えて、他の部屋のベッドで寝ていた方がおり、その都度、職員が誘導するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生については地域の事業所さんの水準よりアップを心掛けている。職員には自己評価を毎月実施、報酬に反映させている。職員の意識改革介護力アップに向け個々の能力に合わせた指導を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの為施設内外研修できず、日々の業務内にて指導を行っている。落ち着いた研修に参加できる日を願っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの為一部、しかも電話やラインでの意見交換、状況相談にとどまる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報収集。必ず施設見学していただき面接、ご本人様やご家族様の不安や要望など聞き取り解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間をかけご家族様の思いを伺っております。傾聴共感をもって不安の解消に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査、面談により 利用者様、ご家族様に提案しご理解をいただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に とともに生活する家族の立場に立って、日常の生活が送れるよう努力している。見守ることも大切にし、時間がかかっても自分でできる幸せを感じてほしいとの考えのもと援助している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密にとり、利用者様の気持ちを代弁したり、ご家族にご了解のもとラインで近況報告、写真を送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別対応。コロナの為接触制限、玄関ホールにてガラス越しの面会やテレビ電話も活用。	ガラス越しの面会となっているが、テレビ会話やSNSでのやりとりをしている家族もいる。以前は親戚や近所の方の訪問もあったが、高齢なのでと気を遣い、自粛されている。	SNSの利用は職員個人の端末を使用しているが、プライバシーを勘案して、事業所の端末を使用することが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者様の個性を把握し利用者様同士で協 力助け合えるよう努力して援助しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後療養型入所の方1名ご家族様のご希 望により回復時には再入所のお約束。退所後 もご家族様のご希望、相談は受け入れており ます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日常の会話や仕草などから 本人の気持ちを 汲み取るようにしている。	日常の様子からくみ取っている。赤ちゃんの大きさの 人形を気に入り一緒に寝ている方がおり、頭をなでたり 、話しかけたりするのを見て、他の利用者も可愛いと 言って手を出すようになった。利用者達は優しい笑顔 になる。人形に着せる洋服を持ってくる職員もいて、み んなのアイドルになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	共に生活する中で思い出話や生活習慣等、 観察、コミュニケーションで把握し、職員間で 共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日常の会話や仕草、行動を観察し、職員間に て共有。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	職員が利用者とのかかわりの中での変化や 発見カンファレンスに繋ぎケアマネージャーが 家族、主治医との意見を基にケアプラン。ご家 族様にご納得いただいている。モニタリングも 3か月に1回実施しプランに反映している。	アセスメントは『筑西市医療介護の情報連携シート』を 使用し、入院や施設利用開始の時に活用している。支 援経過、表情・言葉などを記載。月末に現場からの声 を拾ってモニタリング。留意点は介護記録にボールペ ンやマーカーを使用して、わかり易く記入することにし た。両ユニットのケアマネが連携してプラン作成する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録色遣いの工夫。注意事項にはマー カー使用し、見やすく改善した。記録の書き方 についても指導継続しより分かりやすく、正確 な情報を申し送れるようになってきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせて個別に柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの為自粛しているが管理者が対応。野菜の差し入れ等協力を同じように受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診2か所 歯科医師の往診を受け一時中断はありましたが復旧している。西部メディカルとも関係は良い。	往診医は2ヶ所。利用前のかかりつけ医を継続している方がいた為、2ヶ所になった。2週間に1度の診察で。夜間対応も可能であるが、今は該当者がいない。対応については看護師が判断している。土・日に依頼したこともある。歯科は口から食べることを大切に、口腔ケアは全員が行う。歯科医の往診は月2回だが、コロナで休診中。利用者と共に職員も勉強になる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護支援専門員兼看護師の判断により医師、病院との関係良好		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーとの関係も良好で電話であったり時には面会し退院の指導を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護支援専門員兼看護師と24時間オンコールの実施。緊急時回避している。	医療行為が必要になったら、施設への移行を家族に打診し、施設探しの援助もしている。グループホームでは対応できない、鼻腔栄養になり療養型へ移った例がある。自宅で出来ることはホームでも可能だと考えている。	開設してから数年の事業所である為、これまで重度化の例はないが、今後の準備として、少しずつ研修を取り入れる事を検討して頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを各ユニットに配置、看護師のオンコールにより指示をうけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体、榎戸工務店に炊き出し設備あり、市会議員でもある施設長のため地域の支援体制に期待はできる。避難訓練も実施しており日常的に避難口も利用し慌てないよう出入できるようになってきている。	バケツリレーなど、レクリエーション感覚で避難訓練を行っている。散歩のときは、避難口から出るようにし、普段から動線を確認している。消防からの応援がなくなった。水害の心配がなく、避難者を受け入れる側としての役目を担っている。地震に備え、危険なものは置かない。避難口は玄関を含めて4ヶ所あり、スロープもある。母体工務店の応援、近隣のガソリンスタンドやコンビニなど地域の協力がある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、職員間の会話も指導し節度ある言葉がつかえている。	言葉遣いに配慮し、利用者によつての違いを把握して対応している。申し送り等で情報を共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを密にとり利用者様の思いを汲み取るよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを守るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選んだり、個人のこだわりは尊重している。おやつをバイキングにして選んでもらうこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、味見、あとかたづけなど職員とともにできる方は一緒に参加されている。	看護師が献立を作るが、利用者の要望で変更する事もある。食材は地場野菜を積極的に使用する。その他の食材は生協等のスーパーで購入。感染対策の為、看護師と管理者が買い出しを担当する。職員が調理し、味付けには利用者も参加する。食べることで体力をつけようと、食事のボリュームをアップした。おやつは菓子・パンケーキ・おせんべいなど。個人により食形態を変えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは利用者様に合った食材献立を看護師により指示、水分は定時のみならず常に提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き定着。利用者様同士で声かけも見られる。職員も援助し実施。歯科より定期的に口腔ケアを受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ対応の方も日中はリハビリパンツにて排泄介助実施。排泄援助にて習慣が出来ている。個々の排泄パターンは掴めている。	排泄パターンを把握。自発的にトイレに行く方に対しては見守る。雰囲気察し、時間をみながら誘導する。手洗い後は利用者が縫ったタオルで手を拭く。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックにより管理している。ヨーグルトや牛乳、繊維質の多い食品を心掛け、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は曜日を決めず、自ら進んで入浴できるようゆっくり自分なりの入浴ができるよう支援している。	自ら入りたいと言う人はいないが、脱衣所まで歩いたら入浴になる。他の人の入浴を見て入りたい気分となり、一日に3回入った人がいる。湯は汚れたら代える。肌荒れに配慮して固形石鹸を使用。ゆず湯、しょうぶ湯を楽しむ。ゆずの木があり、ゆず湯の他にもジャムにも利用する。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握し二中の活動活発化を図っている。あくまで個人の状況による。睡眠導入剤、安定剤の服用者はなし。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師管理により医師、薬剤師よりの情報を職員に共有指導している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナの為自粛、ホーム庭にての活動のみ		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為自粛	買い物にも出かけていたが、コロナ禍の為、現在は自粛。理解できる方とそうでない方はいるが、買い物に行けない理由を、テレビのニュースを見ながら繰り返し説明している。密を避けて、運動公園などに出かける。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナの為自粛		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望で自由。希望があれば援助。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた壁紙、シンプルに挑戦。利用者様の行動に落ち着きが見られた。	落ち着いた雰囲気を作る為に、壁に飾られた作品を整理した。庭にはベンチや物干し等があり、生活と営みを感じる。畑に囲まれ、隣の敷地にある栗や柿、ゆず等は自由に採って使って下さいとの言葉を頂き、栗ご飯を楽しんだ。自ら庭掃きをする利用者がある。近所から苗を頂き、ピーマン、トマト、ネギなどの家庭菜園もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーを多く置くことによって自由に居心地よくくつろげる空間となっている。。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には持ち込み自由。となっている。	部屋の入口には表札替わりの造花が飾られている。ベッド、布団、ロッカー、パイプハンガー、整理ダンスはホームの備え付け。小物の洗濯物は各自部屋で干す。利用者が作った布の手拭きは1回毎に洗濯するので、それぞれの部屋に干してある。仏壇や家族の写真なども置かれていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すり、バリアフリー、歩行不安定な方は付き添い見守りを徹底している。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームE☆ホーム

## 目標達成計画

作成年月日 : 2021年4月3日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	ラインによる利用者様、ご家族様との連絡、報告を行っていたが、個人のスマホを使っていたため、アドバイスいただいた。個人情報の安全確保のため	専用機器の導入、移動	2月中に機器の導入、3/10移動完了	0.5ヶ月
2	33	重度化や終末に向けた方針の共有と支援、終末支援の基本的な知識、の習得	職員全体に終末ケアの知識の習得	職員会議内に終末ケア勉強会を入れ、終末期に対応できる知識技術を身に着ける。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。